

□令和4年度 芭蕉翁献詠俳句 一般の部特選

選者名	俳句	住所	俳号
稲畑 廣太郎	名水の音を馳走に夏座敷	西宮市	小林 志乃
稲畑 廣太郎	水無月の森のせせらぎすくひをり	前橋市	新木 ひろみ
井上 弘美	時雨忌の暗き灯の寄る海の町	柏崎市	水野 宗子
井上 弘美	軋鍛冶の船釘太き油照	文京区	市村 和湖
宇多 喜代子	小春日の真綿のやうな睡魔かな	吉川市	人見 正
宇多 喜代子	木の水の石の声聴く終戦日	大垣市	大西 誠一
小川 軽舟	全身で急ぐ毛虫の先に空	四日市市	佐藤 径
小川 軽舟	古池の闇を揺がす牛蛙	伊賀市	山中 洋子
小澤 實	冬空の青いちまいを遺書とする	桜井市	中 佐代美
小澤 實	ジョギングの男半裸や Tシャツ掲げ	品川区	川又 憲次郎
權 未知子	まぶしさや初夏の風真帆にうけ	大田区	佐瀬 はま代
權 未知子	筆文字の封書ふつくら酔芙蓉	板橋区	笠原 みわ子
黒田 杏子	芭蕉忌の人にやさしくなる心	宇都宮市	半田 真理
黒田 杏子	古池や蛙飼はずに放しけり	千代田区	マルティーナ・ ディエゴ
坂口 緑志	緑さす帷に透けて神衣織る	伊賀市	島井 節
坂口 緑志	裏盆の峽に木霊す盆太鼓	三重県	湊 富美子
西村 和子	雲の峰歩き続ける翁像	堺市	合田 マサル

西村 和子	大阪のをんな足早近松忌	京田辺市	加藤 草児
長谷川 權	老ひはさて病来ぬ間の白団扇	横浜市	越智 淳子
長谷川 權	母の日や兵士一人に母ひとり	岸和田市	青木 洋子
星野 椿	水鳥を侍らせ虚子の湖中句碑	伊賀市	森中 幸枝
星野 椿	滴りの一山寂と奥の院	西尾市	蓮沼 たけし
堀本 裕樹	解体の梁に父の字身に入みぬ	勝山市	中村 佐代子
堀本 裕樹	しばらくはものみな光る夕立あと	伊勢市	久世 伸子
正木 ゆう子	一旦は零れ地上を巣立ちけり	伊賀市	久保 善信
正木 ゆう子	振花や吾子に逢ひたし昇りたし	延岡市	河野 正
三村 純也	起きぬけに海を見行く帰省の子	尾鷲市	湯浅 桃代
三村 純也	闇深く河鹿聞きみる外湯かな	久喜市	梅田 ひろし
宮坂 静生	おはぐろの瑠璃寂光を放ちけり	亀山市	岡田 良子
宮坂 静生	早苗田に影を置きゆく夜汽車かな	岡谷市	宮澤 羅夢
宮田 正和	朝の日へけふの色解く仏桑花	四日市市	佐藤 径
宮田 正和	螢生る瀬音の闇を広げつつ	伊賀市	岡島 千秋

□令和4年度 芭蕉翁献詠俳句 テーマの部特選

片山 由美子	冬晴やみな丸顔の一家族	須坂市	宮部 高典
片山 由美子	駅前に花売る車夕立晴	中央区	衣川 由美